

理科	特に育成したい能力や態度 (具体的な数字や言葉で記載する) 2～3にしぼる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のものとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A・・・90%以上の児童 B・・・90～80%の児童 C・・・80～70%の児童 D・・・70%以下の児童
3 年	- 問題→予想→実験→結果→考察の流れを理解し、理科学習の流れが分かる。 - 実験や観察の結果を、ノートやワークシートに分かりやすくまとめる。 - 予想や考察では、他者との交流を通して、自分の言葉で論理的に表現することができる。	- 問題、予想、実験、考察、まとめのマグネットを黒板に貼り、授業に見通しをもたせる。 - 授業の流れと同じノート作りをすることで、ノートに整理しやすくする。 - 図や表を使ってまとめることを意識させるために、表の部分だけを印刷して貼ったり、教師が図や絵の見本をかいいたりする。 - 考察の話型を提示し、論理的な思考力を身につけさせる。 - I C T端末を用いて、全体での意見交流の場を多く設ける。	
4 年	- 問題→予想→実験→結果→考察という理科学習の流れを理解して、学習に臨むことができる。 - 実験の際は、根拠を明確にして予想したり、考察の際自分の言葉でまとめたり、説明したりすることができるようにする。	- 問題、予想、実験、考察、まとめの表示を黒板にすることで、授業に見通しをもたせる。 - 授業の流れと同じノート作りを繰り返し行うことで、学習の流れを理解させる。 - 児童が予想すると考えられる言葉を用意し、そこから自分の考えを書かせるようにする。 - 実験でまとめた表やグラフから実験結果を客観的に捉えさせ、理由を述べながら自分の言葉でまとめさせる。最初は、全体で考えながら経験を積ませ、徐々に一人一人自分の言葉で書けるようにさせていく。	
5 年	① 実験の予想をさせる際に、根拠が説明できるようにする。 ② 実験から分かったこと、考察を自分の言葉で書けるようにする。	① 児童の生活経験を基に、実験結果を予想させる。なぜそのような結果になるのか、理由や根拠を挙げさせる。予想を交流させることでモデルとして、いろいろな考え方や視点に気付けるようにする。【達成感80%】 ② 考察の文型を示し、参考にして書けるようにする。次第に支援を減らし、自力で書けるようにスモールステップの指導をする。【達成感80%】	

6 年	① 予想を立て、実験を経て分かったことを理解する力を身に付けさせる。 ② 身の回りの事象に疑問を見出し、課題を解決する力を養う。 ③ 安全な器具の使い方を学び、実践する。	① 予想を立てる際は、互いの意見を交流させる。また、結論や考察では、学習内容と身の回りの事象とを関連付けて書かせ、知識として定着できるようにする。 観察や実験をどのような目的で行うのか、目的意識をしっかりもたせ、観察や実験に臨ませる。(達成率 80%) ② 全体での交流場面や、友達との交流場面を設定することや、個別に対応する中で言葉を引き出すことで、説明の仕方を身に付ける。(達成率 80%) ③ 動画教材による視覚的な理解と説明と実演による実際の使用法の理解を進める。(達成率 100%)	
----------------	--	---	--